

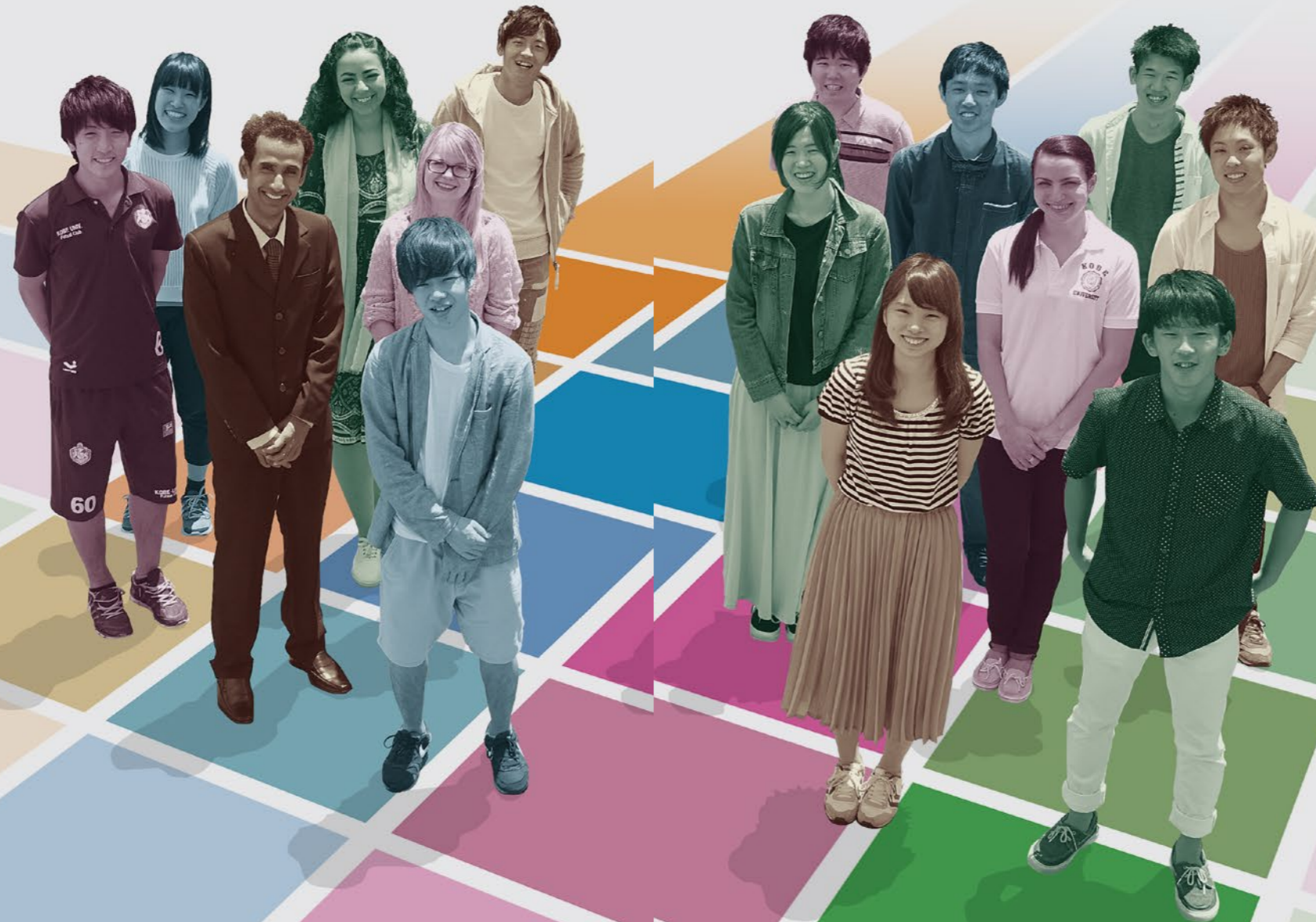
神戸大学
国際人間科学部 2020
Faculty of Global Human Sciences, Kobe University



人という始源、地球という舞台。

グローバルイシューへの挑戦

国際人間科学部は、深い人間理解と他者への共感をもって地球的規模の課題に向き合い、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成します。現代の世界には、環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関わり、現代社会が地球規模での協働を通して取り組まなければならない課題（グローバルイシュー(global issues)と呼びます）が数多く存在しています。本学部では、様々な専門分野からこのグローバルイシューの構造を明らかにし、多様な境界線を越えて人々と自在にコミュニケーションをとり、課題の共有と解決に向けてリーダーシップを発揮できる「協働型グローバル人材」を社会に輩出することを目指します。



学部を構成する4学科

グローバル文化学科

取得可能な学位：学士(学術) Bachelor of Arts

発達コミュニティ学科

取得可能な学位：学士(学術) Bachelor of Arts

環境共生学科

取得可能な学位：学士(学術) Bachelor of Arts

子ども教育学科

取得可能な学位：学士(学術) Bachelor of Arts
学士(教育学) Bachelor of Education

Contents

学部長からのメッセージ	04
アドミッションポリシー/沿革	05
カリキュラム	06
学生メッセージ	08
グローバル・スタディーズ・プログラム	10
主な協定校	14
学科紹介	15
グローバル文化学科	16
発達コミュニティ学科	20
環境共生学科	24
子ども教育学科	28
インフォメーション	31
キャンパス紹介	32
募集人員/取得可能な資格免許/学生生活支援	34
アクセス	35

Message from Dean

学部長からのメッセージ

私たちはふだん、自分を中心に多くの“境界線”を心に描いて、生活の道しるべにしています。わが家の家族と隣家の家族、わが町の住民と隣の住民、わが校の生徒と他校の生徒、わが国の国民と他国の国民、等々。これら2つのグループの間には、境界線がはっきりと目に見える場合もありますし、境界線が見えにくく互いの構成員が相互に浸透しているような場合もあります。つまり、境界線の「内側」と「外側」、「われら」と「彼ら」の区別が明瞭で、双方の間の自由な往来が困難な場合と、そうでない場合とがあると言えます。人間が構築するこれらの境界線の中で、私たちの越境に対して最も“堅い”障壁としてしばしば立ち現れるのが、国境線です。もっとも、「隣国との間にもっと高い壁を構築せよ」と主張する大統領が存在する一方で、日本のような島国では、この最も堅い障壁すら、物理的には存在しないことにも注意が必要です。

しかし、さかのぼって考えると、そもそもなぜ“そこ”に国境線は引かれなければならなかったのでしょうか。私たちはふつう、人間の諸集団がそれぞれ、異なる言語、異なる文化、異なる宗教、異なる“人種”等が原因となつて、それらの集団相互間の境界線が自然と生まれたのではないかと考えがちです。言い換えると、これらの異なる諸要因に基づく“アイデンティティ”の相違が、さまざまな国境線の原因だったと想像するわけです。

およそ20年前、ジグムント・パウマンというポーランド出身の高名な社会学者は、これを大胆に否定しました。彼はむしろ、言語や文化や宗教などの相違に基づくアイデンティティも、社会的集団の間の境界線も、その時々“移動手段”が人間に課す時間的・費用的な制約が堆積して生まれた社会的創造物である点では変わりがないと主張しました。この考え方によれば、人間にとって“距離”というのは、客観的・物理的にそこに“存在する”ものではなく、その社会の移動手段が人間に与える“速度の限界”の所産にすぎません。私たちが利用できる移動手段がどれだけの時間的・費用的な制約を私たちに課すかが、私たちの自由な移動そのものを制限し、その結果、相異なる集団的アイデンティティと、それらの間に横たわる境界線とを、歴史的に形成してきたというわけです。

近代社会の成立以降、そして特に最近数十年間は、情報、資本、モノ、そして人間の移動手段が長足の進歩を遂げてきました。このことは私たちに何を意味するのでしょうか。それは、科学技術とりわけ情報通信技術の発展が、人間に課されてきた“速度の限界”を今や解除し、さまざまな文化圏の間の“距離”の意味を失わせつつあることを意味しています。高度情報化社会、金融資本市場のグローバル化、先進諸国への移民の大規模な流入等、現代社会の諸特徴は、空間的な距離が無効化されつつあることの表れにすぎません。

国際人間科学部に課せられた社会的課題は、私たちの身の周りに生じつつあるこのようなグローバル化の趨勢にひるむことなく立ち向かい、現代社会に生じている諸課題を、さまざまな境界線を乗り越えて多くの人々と協力しながら解決へと導くことのできる人材—協働型グローバル人材—を養成することです。本学部は、現代社会が要請する様々なスキルを駆使して、グローバル・イシューに正面から取り組む意欲のある学生とともに、学び、行動し、発信することをめざしています。

私たちの住む世界は、これまででも、そしてこれからも、不完全なものでありつづけるのかもしれませんが。それでも、教育・研究を通じてこの世界が抱えている諸課題を少しでも解決の方向に導く使命が、大学人には課せられていると思います。知的好奇心と情熱にあふれる学生の皆さんと、このような理念を共有し、現代世界の諸課題の解決に貢献するため、ともに学ぶことを楽しみにしています。

国際人間科学部長 櫻井 徹 教授



Admissions Policy

アドミッションポリシー

入学者受け入れ方針

国際人間科学部では、グローバルな社会で生起する環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関する諸課題を深い人間理解と他者への共感をもって解決し、「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

- 1 現代社会の諸問題を発見し、その問題を多面的にとらえて考察し、自分の考えをまとめる基礎的な能力を有する学生
- 2 異なる考え方や文化を尊重し、共感をもって、積極的にコミュニケーションを行う資質を有する学生
- 3 国内外の様々な人と連携・協働して、地球規模で問題を解決し、社会に貢献しようとする意欲を持つ学生

沿革

平成29年(2017年)4月、国際文化学部と発達科学部を再編統合し、国際人間科学部を設置しました。

【国際文化学部・国際文化学研究科】

- 1923年(大正12年) 官立姫路高等学校設立
- 1949年(昭和24年) 神戸教養課程設置
- 1963年(昭和38年) 神戸大学教養部設置
- 1992年(平成4年) 神戸大学教養部を改組し、神戸大学国際文化学部設置
- 1997年(平成9年) 神戸大学大学院教育学研究科を改組し、神戸大学大学院総合人間科学研究科修士課程設置
- 1999年(平成11年) 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程設置
- 2005年(平成17年) 神戸大学国際文化学部改組
- 2007年(平成19年) 神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、神戸大学大学院国際文化学研究科設置

【発達科学部・人間発達環境学研究科】

- 1874年(明治7年) 兵庫県師範伝習所設置
- 1949年(昭和24年) 兵庫師範学校と兵庫青年師範学校を統合し、神戸大学教育学部設置
- 1981年(昭和56年) 神戸大学大学院教育学研究科修士課程設置
- 1992年(平成4年) 神戸大学教育学部を改組し、神戸大学発達科学部設置
- 1997年(平成9年) 神戸大学大学院教育学研究科を改組し、神戸大学大学院総合人間科学研究科修士課程設置
- 1999年(平成11年) 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程設置
- 2005年(平成17年) 神戸大学発達科学部改組
- 2007年(平成19年) 神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、神戸大学大学院人間発達環境学研究科設置

【国際人間科学部】

- 2017年(平成29年) 神戸大学国際文化学部と発達科学部を再編統合し、神戸大学国際人間科学部設置

学びの特色

POINT 01 グローバルな発信と課題解決のための基礎をつくる

グローバル社会に対し即応可能な発信力を養うため、複数言語でのプレゼンテーションやライティング、またICTによる情報発信など、目的に応じて多数開講される科目を受講し、十分なコミュニケーション能力を身に付けます。また、グローバルイシューの現場で実際に情報を収集・分析するために必要な技能を身に付けることを目的として、多様な人々と協働しつつ課題解決に向けて先導する能力を開発するための「協働型リーダーシップ論」や、フィールド学修を通して実際のグローバルイシューの実態を把握するために必要な基本的技能を培う「フィールドワーク方法論」などの専門科目を学び、実践的対応力を修得します。

POINT 02 実践的なグローバルを体験する

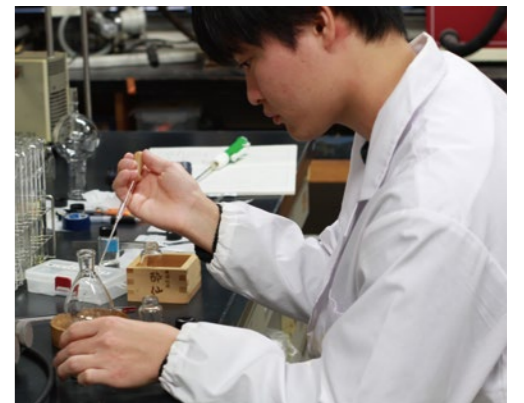
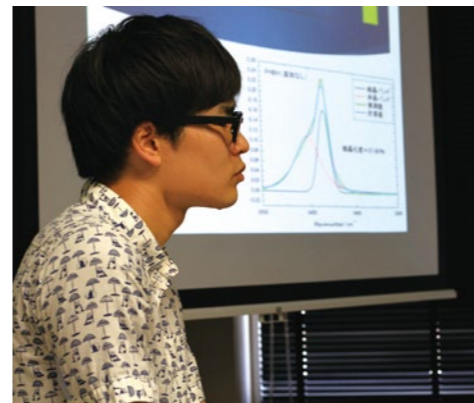
グローバルイシューの解決のために多様な人々と協働し、その活動の中でリーダーシップを発揮する行動力を身に付けるための実践型教育プログラムとして、「グローバル・スタディーズ・プログラム (GSP)」を設置しています。このプログラムでは、専門性と希望に応じ用意されたコースの中から、学生全員が自らの海外での学びの場を選択し、学修の具体的な課題を自ら設定して、海外研修と国内外でのフィールド学修に参加します。GSPを通じて得た具体的な体験から、グローバルイシューを解決する際に必要な問題意識や実践的な視点を獲得し、それらを理論的知識に接合して、自らの将来のキャリア形成に活かしていきます。

POINT 03 多角的視点から専門的知識を身に付ける

「異文化理解」「人間発達」「環境共生」に視点をおき、多文化をめぐる複雑な問題の解決への道筋を提案する発信力、「人間の発達」の諸相を理解しそれを支えるコミュニティの形成を実現する実践力、共生社会を支える環境の創出と保全に寄与する分析力と行動力、さらに、これと連携し次世代指導者を育成する教育力を身に付けるための専門的知識を学びます。ラーニングコモンズなどの施設、フィールド学修、広い知見と豊富な経験をもつ教員の配置など、全ての形式の授業（講義、演習、実験・実習）においてアクティブ・ラーニングを推進する環境を通じて、専門的知識をベースに、自ら課題を発見し解決する力を養います。



入学から卒業までの履修の流れ



Messages from Students

学生メッセージ



グローバル文化学科 3年

山口 彩香 Ayaka Yamaguchi

GSコース 研修型

プログラム名 カンタベリー大学付属英語学校:英語(ニュージーランド)、
映像アーカイブ活動プログラム:神戸映画資料館(神戸)

海外研修ではニュージーランドに一月の語学研修に行きました。研修先の授業では、これまでの学びより多くの自主性と発言力が求められ、その新鮮な授業を楽しみつつも、言いたいことがうまく伝えられないもどかしさに悔しい思いもしました。国内研修は神戸映画資料館で行わせていただき、文化イベントの運営に必要なことや、将来のために映画の資料を残していく大切さを学びました。この二つの研修を通して、私は自分の学びたいことを深く考えるようになりました。語学力を上げるという目標ができ、映画を含むエンターテインメント界にかかわる仕事につけるよう進みたいと考えようになりました。ターニングポイントとなった研修で過ごした時間と、出会えたすべての人に感謝しています。



環境共生学科 3年

佐藤 秋周 Akinari Sato

GSコース 実践型

プログラム名 アジア・フィールドワーク(インドネシア、リアウ・コース)

私は自然や環境問題に関心があります。そのため私は、授業やGSPで自然環境や国際的な問題について学ぶことができる環境共生学科に入学しました。私はGSPでインドネシアに行き、日本でも有名な森林伐採のような問題の他にも、開発やごみ処理などの環境問題が多く存在していることを人々との交流を通じて学びました。私はこの体験を通して、環境問題を考える上では実際に現地で何が問題視されているのかを知ることが重要であると実感しました。私は将来環境保全に携わりたいと考えています。そのため今後も大学で環境問題について学ぶだけでなく、各地で実際に何が問題視されどのような対策が行われているのか知るために積極的に行動し、環境問題について考えていきたいと考えています。



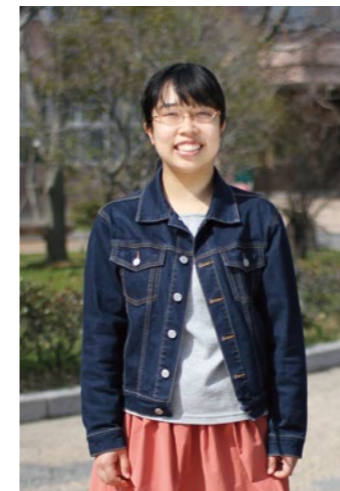
発達コミュニティ学科 3年

岩永 ゆき Yuki Iwanaga

GSコース 実践型

プログラム名 ワークキャンプ:多文化共生(フィンランド)

私はコミュニティや、社会教育、マイノリティの人たちの支援について興味があり発達コミュニティ学科に入学しました。GSPでは、難民や障害者等様々なニーズをもった人を受け入れているIKKOというフィンランドの非宗教学校のワークキャンプに参加し、そこにいる方々と一緒に生活をしました。初めは彼らに話しかけるのをためらい、私自身の偏見についても考えました。しかし実際に、マイノリティの人たちとそれを支える方が「家族のように暮らす」現場に立ち会い、共に過ごすうちに、互いに言語を教えあったりするようになるなどとても打ち解けた時間を過ごすことができました。この経験から、日本の社会福祉・教育に関するコミュニティの課題等について考えていきたいと思っています。



子ども教育学科 3年

高嶋 真夕子 Mayuko Takashima

GSコース 研修型

プログラム名 ハワイ小学校訪問プログラム(HOKU)(アメリカ合衆国)

私は、幼稚園の先生になりたいと国際人間科学部に入学しました。子ども教育学科では、長期的な成長を見通した教育を学ぶため、小学校教員になるための勉強もしており、GSPでは小学校の児童の異文化交流をサポートするハワイのプログラムに参加しました。子どもたちを見守りながら一緒に交流に参加したり、学生同士でハワイの教育を日本に取り入れるメリット・デメリットについて議論したりという、貴重な経験ができました。行く前には不安もありましたが、多くの人に支えてもらい、また子どもたちの頑張る姿や見違えるような成長に何度も励まされました。今後は長期的な視点をもった教育について知識を深めながら、どのような経験で子どもたちが何を学び得るかを考えたいと思います。



交換留学生

ピーター カービー Peter Kirby

出身校 メリーランド大学(アメリカ合衆国)

私は日本のJETプログラムへの参加を希望して、メリーランド大学で主専攻を日本語、副専攻を英語教育として勉強しました。また課外活動として日米学生協会(Japanese American Students Association)で日本文化関係の行事に携わりました。神戸大学では、日本文化とともに日本語の勉強をしています。映画鑑賞も趣味で、日本映画では「火垂るの墓」と「東京物語」が好きです。神戸は山と海の両方の景色があるので、キャンパスはとてもきれいです。日本語と日本文化の授業はたくさんあり、日本について多く学ぶことができます。また、多様な国から来た留学生と一緒に勉強し、たくさんの文化を学ぶこともできます。将来は、日本で英語教師をしながら、映画のシナリオを書いてみたいと思っています。



交換留学生

フィオナ シーファー Fiona Schiefer

出身校 ハンブルク大学(ドイツ)

私は子供の頃から私にとっての異文化、特に東アジアの文化に深い興味を持ち、高校の時に日本語を勉強し始めました。日本語や日本の文化に関して勉強することが好きになったので、ハンブルク大学で日本学を勉強しました。具体的には平安時代の文学、特に枕草子を学び、神戸大学ではさらに深く平安時代の文学を学ぶために勉強をしています。私にとって、新しい友達と日本の伝統的な行事や祭りに参加し、実際に体験することは最も楽しく幸せを感じます。この留学のおかげで、日本語の上達だけでなく、色々な経験をし、人間として成長できたことをとても嬉しく思っています。今後も日本でたくさんの友人を作って日本語をたくさん話し、お互いの文化を教えあいたいと思います。

Global Studies Program

グローバル・スタディーズ・プログラム

グローバル・スタディーズ・プログラム (GSP) とは、実体験を通してグローバルイシューについて学ぶことを目的とし、本学部生全員が海外研修とフィールド学修に参加する実践型教育プログラムです。国内外の多くのフィールドで実施される個別プログラムへの参加を通じて、皆さんが将来、グローバル社会の課題解決を目指して多様な人々と協働し、その中でリーダーシップを発揮していくために必要な力を自らの中に育てていきます。

グローバル・スタディーズ・プログラムの特色

グローバルイシューの現場での実践的な取り組み

「グローバルイシュー概論・演習」を通じ、文理の境界を越えた様々なグローバルイシューについて学びます。そこで培った自らの興味・関心にもとづき、学生自身がテーマ設定をして、海外、国内の(現場=フィールド)を選択します。フィールドで実際に様々な人々と出会い、協働することを通して、より広い視点から自らのテーマをグローバルイシューとして深化させ、その解決を模索します。

100を超える多様なプログラム

GSPでは、研修の期間、内容、フィールド学修の場所によって、「実践型」「研修型」「留学型」という3つのグローバル・スタディーズ・コース (GSコース) が設定されています。学生は、自らの学修計画に応じて、一つのGSコースを選択し、さらに各コースのもとにある合計100を超える個別のプログラムの中から、自分が取り組むグローバルイシューに最も適したプログラムを選択して参加します。

学生のニーズに応じた学修支援

GSPでの学修を支援するために、GSPオフィス (室長、副室長、5名の専門スタッフから構成) を設置し、オリエンテーション・リフレクション、渡航ガイダンス、危機管理オリエンテーション等、きめ細かい情報提供と学生の主体性を引き出す指導をしています。また、GEMs (神戸大学グローバル教育管理システム) により、オンラインで個別プログラムの検索、内容閲覧、参加申し込みを行うことができます。

グローバル・スタディーズ・プログラムの流れ

GSPIは、事前学修、「GSコース」(海外研修とフィールド学修)、事後学修の3つのステージで構成されます。「GSコース」では、一人一人の学修計画に応じて「実践型GSコース」「研修型GSコース」「留学型GSコース」のいずれかを選択します。

事前学修

- グローバルイシュー概論
代表的事例の現状と解決策を専門的見地から学修
- グローバルイシュー演習
アクティブ・ラーニングを通じて具体的な事例を学修
- オリエンテーション
自らが取り組むグローバルイシューに関する具体的な課題を設定

コース選択

実践型GSコース

海外スタディツアーまたはインターンシップ

研修型GSコース

海外語学研修またはサマースクールと、国内フィールド学修

留学型GSコース

交換留学または中期留学

事後学修

- リフレクション
「GSコース」での体験の共有
- グローバルな課題に対する自己の実践の意義づけ
- フィールド学修についての成果発表とレポート作成



GSPオフィス

GSPオフィスは、GSPの学修全般をサポートする部門です。GSPオフィスでは、海外研修やフィールド学修の豊富な経験をもつコーディネーターが常駐しており、学生一人一人がGSPの各科目を効果的に学修し、GSPの目的を達成できるよう、専門のコーディネーターが学業と海外生活の両面についてアドバイスします。



GSPオフィスの役割

- 1 学生一人一人の専門性に合わせた学修指導**
学生はコーディネーターとの相談を重ねながら、3つの「GSコース」の中から自分の専門に合うプログラムを見つけます。事前学修・事後学修の他、プログラム参加中も、海外研修先などからコーディネーターによるアドバイスを受けることができます。
- 2 海外研修及びフィールド学修プログラムの情報提供**
各種のプログラムについて最新の情報を提供する他、海外研修のための奨学金の紹介も行っています。GSPオフィスは、学生同士の情報交換の場でもあります。様々な興味関心をもつ学生が集い、学生同士がお互いの力を発揮して協力して学ぶことができます。
- 3 海外渡航に関わる安全と危機管理**
渡航前の「オリエンテーション」での危機管理に関するアドバイスの他、神戸大学全体はもちろん、海外危機管理専門の機関とも連携しながら、渡航中の学生の安全確認等を実施します。

GSPオフィスの教員

役職	教員名	職名	研究分野
室長	太田 和宏	教授	途上国政治経済
副室長	貞好 康志	教授	東南アジア地域研究、人間・環境学
統括コーディネーター	落合 知子	准教授	異文化間教育学、教育人類学
コーディネーター	水野 直子	講師	社会人口学、国際開発
コーディネーター	正楽 藍	講師	教育社会学、比較教育
コーディネーター	軽込 郁	助教	国際開発、社会福祉、社会教育
コーディネーター	阿部 哲	助教	文化人類学、民族誌、宗教学

グローバル・スタディーズ・コース (GSコース) の概要と具体例

各コースでは、多様な期間と内容を備えた海外スタディツアーやインターンシップ、語学研修、サマースクール、留学など、国内外の様々なフィールドでの実践的な学修へ主体的に参加します。ここで挙げた具体例はごく一部で、他にも多彩な個別プログラムを用意しています。なお、個別のプログラムへの参加費用や必要となる保険加入等は自己負担となります。海外研修に係る学生の皆さんの経済的な負担を軽減するため、神戸大学の助成制度や日本政府の支援制度を活用することができます。

実践型GSコース [日本で学び、海外でフィールド学修を行う]

国内で学修した専門的知識を海外の現場で応用し、その地域の人々と協働しながら実践的にグローバルイシューに取り組みます。

テーマの例
ミネソタ州(米国)で障害者権利擁護運動に接する
オレゴン大学バインマウンテン天文台(米国)で宇宙観測を学ぶ
ハワイ(米国)の小学校で神戸大学附属小学校の国際理解教育を支援する
バリ島(インドネシア)で環境教育と異文化に触れ、学ぶ
中国の太湖周辺郊外から上海都市部へ、自然環境と社会環境の変化を訪ねる
カセサート大学(タイ)での非破壊機材で農産物分析をする
フィリピンで労働問題、歴史認識について比較調査する
ネパール都市部と山間部で学校を拠点とした地域の保健教育を学ぶ
英国の教育・子育て支援に関する日英比較研究会と研究調査を行う
ウィーン(オーストリア)のアートの現場で、アートマネジメント・芸術教育を学ぶ
クラコフ(ポーランド)での文化交流を学び、実践する
コベルニクス大学(ポーランド)日本語教育の現場で体験する
ベルギーとフランスの協定大学で合同ゼミに参加・発表する
エストニアで引きこもりの子どもたちとのファームステイをする
フィンランドの難民受け入れ学校で北欧の多文化共生を学ぶ

注)ここであげたプログラムはごく一部です。また実際のプログラム名とは異なります。

研修型GSコース [海外と日本で学び、日本でフィールド学修を行う]

海外での語学研修やサマースクールに参加し、国際的な視野を獲得すると共に、日本国内でフィールド学修を通じて、比較文化的・多角的な視点からグローバルイシューに取り組みます。

テーマの例	内容例
民族文化の継承	テヘラン(イラン)で民族音楽を学び、淡路島で人形浄瑠璃に関するフィールドワークをする。
スポーツボランティア	シドニー(オーストラリア)でスポーツボランティア英語研修とマスターズ甲子園(国内)でシニアスポーツイベントの運営をサポートする。
多文化な子どもの教育	ウェスタン大学(カナダ)で英語研修に参加し、新長田(神戸市)の外国にルーツを持つ子ども支援NGOでインターンを行う。
サイエンス教育	カリフォルニア大学デービス校(米国)でサイエンス英語を学び、神戸で市民と科学を語らうサイエンスカフェを企画運営する。
アートでまちづくり	ニューヨーク(米国)で英語研修とアートなまちづくりを学び、元町の芸術でまちづくりをするNPOで学ぶ。

注)ここであげたテーマはごく一部です。



留学型GSコース [海外の大学で学び、海外でフィールド学修を行う]

中長期にわたって海外に滞在し、専門的知識を修得すると共に、現地でフィールド学修を行い、グローバルイシューに取り組みます。

タイプ	内容
交換留学	1年もしくは半年の協定校(P14参照)との交換留学です。神戸大学に学費を納める代わりに、協定校での学費・入学金を免除されます。協定校で修得した単位を神戸大学の単位として算入することができます。留学を計画的に行えば、4年間での卒業が可能です。
中期留学	8週間から6か月にわたって、英語研修や専門の講義を受講すると同時に、自ら企画・設定したフィールド学修に取り組みます。中期留学先にはブロック大学、西オーストラリア大学、高麗大学、アラバマ大学、ヒューロン大学、カリフォルニア大学パークレー校などがあります。

GSPIに関する情報

3年生(2017年度入学者384名)

GSコース	海外研修に参加した学年				海外の研修先(注2)					国内フィールド学修(研修型のみ)(注2)			
	合計	1年次	2年次	3年次(注1)	アジア地区	オセアニア地区	北米地区	欧州地区	アフリカ地区	合計	1年次	2年次	3年次
実践型	156	0	150	6	21	9	26	94	6				
研修型	131	51	80	-	24	49	54	4	0	101	0	68	33
留学型	66	0	31	35	8	11	23	24	0				

(注1)3年次の人数は、2019年3月31日時点で確定している参加者数です。

(注2)海外の研修先と国内フィールド学修の欄は、2019年3月31日時点で確定している参加者数です。

交換留学生との交流

国際人間科学部では、約25か国50協定校から年間約60名の交換留学生を受け入れています。本学部キャンパスにおいて、留学生と共に学びながら、様々な異文化に触れることができます。また、本学部では在学生によるチューター組織があり、留学生の来日時の諸手続き・学修・日常生活などのサポートを行っています。留学生とのパーティーや淡路島ショートトリップなどの公式行事や、ハイキング・花見・紅葉狩り・六甲祭出店など様々な自主イベントの企画・運営も行います。これらの交流活動を通して広い世界を知り、体験し、飛躍する力を身につけることができます。



主な協定校

国・地域	大学名
中国 China	Beijing Foreign Studies University Beijing Normal University East China Normal University Minzu University of China Nanjing University Renmin University of China Shanghai Jiao Tong University The University of Hong Kong Tsinghua University Wuhan University
インドネシア Indonesia	Gadjah Mada University
韓国 Korea	Chung-ang University Jeju National University Pusan National University Korea Nazarene University Seoul National University
モンゴル Mongolia	National University of Mongolia
フィリピン Philippines	Ateneo de Manila University San Beda College
シンガポール Singapore	Nanyang Technological University
台湾 Taiwan	National Chengchi University National Taiwan University
タイ Thailand	Thammasat University
ベトナム Vietnam	Vietnam National University Ho Chi Minh City University of Social Sciences and Humanities
オーストラリア Australia	Curtin University The University of Queensland The University of Western Australia University of Wollongong The University of New South Wales
ニューカレドニア New Caledonia	The University of New Caledonia
カナダ Canada	Huron University College University of Ottawa
アメリカ合衆国 United States	Queens College of The City University of New York The University of Pittsburgh The University of Tennessee, Knoxville University of Georgia University of Maryland Utah State University Georgia Institute of Technology
ブラジル Brasil	University of Brasilia
オーストリア Austria	FH JOANNEUM University of Applied Sciences University of Graz
ベルギー Belgium	Ghent University Katholieke Universiteit Leuven Saint-Louis University Vrije Universiteit Brussel Université Libre de Bruxelles (ULB)

国・地域	大学名
ブルガリア Bulgaria	Sofia University St.Kliment Ohridski
チェコ Czech	Charles University
デンマーク Denmark	Aarhus University
フィンランド Finland	University of Helsinki
フランス France	Université de Lille 3 Université de Rennes 1 Université Grenoble Alpes Université Paris 2 Panthéon-Assas Université Paris Diderot - Paris 7 Université Paris Ouest Nanterre La Défense
ドイツ Germany	Free University of Berlin Kiel University Martin Luther University Halle-Wittenberg Trier University University of Hamburg Leipzig University Technical University of Dresden Technical University of Munich Technical University of Darmstadt
ハンガリー Hungary	Eotvos Lorand University
イタリア Italy	Ca' Foscari University of Venice Università degli Studi di Napoli L'Orientale UNIOR Università di Bologna Campus di Forlì Università di Bologna
リトアニア Lithuania	Vilnius Gediminas Technical University
オランダ Netherlands	Leiden University
ノルウェー Norway	University of Bergen
ポーランド Poland	Jagiellonian University Nicolaus Copernicus University in Torun University of Warsaw
ルーマニア Romania	Babes-Bolyai University
ロシア Russia	Saint-Petersburg State University
スペイン Spain	Autonomous University of Barcelona University of Barcelona
スイス Switzerland	University of Basel
英国 United Kingdom	School of Oriental and African Studies (SOAS) University of London The University of Manchester The University of Sheffield University of Birmingham University of Essex University of Kent

※ 協定校に関する最新情報は、<http://www.fgh.kobe-u.ac.jp/ja/node/59> をご覧ください。

学科紹介 Departments

Global Cultures

Human
Development
and Community

Environment
and Sustainability

Child Education

グローバル文化学科

発達コミュニケーション学科

環境共生学科

子ども教育学科



グローバル文化学科

Mission ミッション

国境を越えたコミュニケーションを推進できる
リーダーシップを備えた人材を養成する

本学科では、多文化間の境界を乗り越えるグローバル共生社会を実現するため、高度な外国語の運用能力とICT教育に基づく情報分析力や発信力を駆使して、異文化間のコミュニケーションと相互理解を率先して推し進め、多文化状況、文化交流、文化摩擦等をめぐるグローバルな課題の解決への道筋を社会に発信する能力をもつ人材を養成することを目標とします。この目標を達成するために、文化、社会、コミュニケーションを軸に「グローバル文化形成」「グローバル社会動態」「グローバル・コミュニケーション」の3つの教育研究の柱を置き、これらの切り口から人間社会における多様なグローバルイシューを解決する糸口を探していきます。

本学科が育成するグローバルな課題に関するリーダーシップを発揮できる人材は、現代社会の幅広い分野で求められています。卒業生の進路としては、海外展開の活発な製造業、マスコミ、情報通信業、金融業の他、外務省・経済産業省や各都道府県などの国家・地方公務員、JICA・兵庫県国際交流協会等の国際協力機関に加え、大学院進学等が考えられます。

Points 学びの特色

1 高い専門性とリーダーシップを備えた人材を養成する

本学科の軸となる3つの柱「グローバル文化形成」「グローバル社会動態」「グローバル・コミュニケーション」、それぞれに対して教育プログラムを設定しています。各自の興味や将来の進路などの目的に応じて、教育プログラムの枠を超えた柔軟な授業の選択が可能です。

2 多彩な学際的カリキュラムを通して、専門的能力を身に付ける

受入留学生を交えた国際共修授業はもとより、多彩な語学教育、長期の交換留学制度、国内外でのフィールドリサーチやインターンシップ等、多様なアクティブ・ラーニングを利用しながら、それぞれの専門的能力を修得できるカリキュラムを用意しています。さらに、卒業論文については「グローバル文化特別演習」を設定し、論文指導教員よりきめ細やかな指導を受けて学修成果の総仕上げを行います。

3 「留学したい」を後押しする、長期留学をサポートするカリキュラム

選抜を経て協定大学に留学する交換留学プログラムでは、留学先で修得した授業の単位は神戸大学の単位として認定することができます。また、正規の留学中も、神戸大学に在学していますので、これらを上手く利用すれば、1年間の長期留学を含めても4年間で卒業することが可能です。

Programs グローバル文化学科が展開する3つのプログラム

グローバル文化形成プログラム

今日の世界に存在する多様な文化と価値観が、どのような過程を経て形成され、また相互の交流・摩擦・征服等を通じていかに変容してきたのかを正確に把握し、我が国との相互比較的な視点も交えた文化的理解ができる力を身に付けます。

グローバル社会動態プログラム

情報・資本・人・モノの活発な移動とともに社会が急速にグローバル化しているという現代的動態に焦点を当て、グローバル社会が直面する重要な諸課題を解決するために何が求められているのかを分析し、発信する能力を身に付けます。

グローバル・コミュニケーションプログラム

言語・感性によるコミュニケーションの可能性と問題点や、ICTを用いた多彩な情報の収集・分析・発信に関わる能力を育成し、これらの研究成果をグローバルな課題解決に活用する能力を身に付けます。

Curriculum

1年次

2年次

3年次

4年次

教養科目		情報基礎科目		健康・スポーツ関連科目		外国語		基礎教養科目		総合教養科目								
学部共通科目	GSP (10ページ)	グローバルイシュー概論		グローバルイシュー演習		GSP演習科目(オリエンテーション)		GSP(留学型GSコース)		実践型GSコース・研修型GSコース		GSP演習科目(リフレクション)						
	基礎・発展科目	[学部共通]基礎科目 初年次セミナー 情報リテラシー演習 協働型リーダーシップ論 異文化間教育論		[学部共通]発展科目 異文化コミュニケーション論 フィールドワーク基礎論 ソーシャルエンパワメント論 国際開発援助論(JICA)		[学部共通]基礎科目 国際コミュニケーション演習 TOEFL演習 グローバル共生社会論		[学部共通]発展科目 コミュニティ創成論 TOEIC演習 イタリア語入門 ロシア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門		Academic Communication(英) Academic Writing(英) Academic Communication(独、仏、中、露) Academic Writing(独、仏、中、露) Cultures and Societies in Japan		日本語コミュニケーション フィールドワーク方法論 情報発信演習 プログラミング基礎演習 ESD演習		途上国農村地域開発論 English Presentation Skills English for Professional Purposes				
共通科目	情報科学概論 グローバル・ヒストリー グローバル化と現代世界 Oxbridge English Summer Camp 1		先端科学社会文化論(JAXA) 日欧比較セミナーI 日欧比較セミナーII Aspects of EU Culture and Society(Lecture) Aspects of EU Culture and Society(Seminar)		Lectures on Social Dynamics Lectures on Cultural Formations Lectures on Global Communication Oxbridge English Summer Camp 2 EUエキスパート人材養成プログラム特別講義		Oxbridge English Summer Camp 3 日欧比較セミナーIII											
学科専門科目	日本社会文化論 中国社会文化論 環大西洋文化論 文化政策論 文化人類学 現代社会理論 国際関係論 近現代社会思想論 現代IT入門 非言語コミュニケーション論 第二言語習得論 グローバル文化形成基礎演習A,B グローバル社会動態基礎演習A,B グローバルコミュニケーション基礎演習A,B		グローバル文化形成プログラム 日本歴史文化論 日本メディア文化論 日本文化交流論 日本思想文化論 近現代アート論 近現代文化言説論		グローバル社会動態プログラム 近現代政治思想論 ジェンダー社会文化論 メディア社会文化論 比較民族学		グローバルコミュニケーションプログラム コミュニケーション表現論 翻訳コミュニケーション論 音声コミュニケーション論 コミュニケーション比較論		アメリカ文化論 アメリカ社会論 東アジア政治社会論 オセアニア社会文化論 北アジア歴史社会論 東南アジア社会文化論		東南アジア政治文化論 ロシア・東アジア社会文化論 ヨーロッパ社会文化論 ヨーロッパ文化形成論 アートマネジメント論 東欧・ロシア社会文化論		英米テキスト文化論 近現代モード論 表象文化形成論 近現代表象文化論 視覚文化論 文化翻訳論		比較文化論 宗教文化論 科学技術文明論 グローバル文化形成基礎演習C,D グローバル文化形成発展演習A,B		グローバル文化形成発展演習C,D グローバル文化特別演習	
コア・展開科目					現代社会人類学 文化混交論 現代民族誌学		比較政治社会論 多文化政治社会論 近現代経済思想論 グローバル正義論		平和構築論 比較政策論 越境社会学		グローバル社会動態基礎演習C,D グローバル社会動態発展演習A,B		グローバル文化特別演習 グローバル文化特別演習					
					データマネジメント ITコミュニケーションデザイン 統計情報処理 社会システム科学		認知コミュニケーション論 コミュニケーション構造論 言語機能論 日本語・日本事情演習		グローバル・イングリッシュ・ヒストリー グローバルコミュニケーション基礎演習C,D グローバルコミュニケーション発展演習A,B		グローバルコミュニケーション発展演習C,D		グローバル文化特別演習					

卒業研究



グローバル文化形成

- | | | |
|-------|-----|------------------------------|
| 青島 陽子 | 准教授 | 歴史学、中東欧・ロシア史 |
| 池上 裕子 | 准教授 | 1945年以後の美術、現代アート、グローバル・モダニズム |
| 石田 圭子 | 准教授 | 美学、芸術論、表象文化論 |
| 板倉 史明 | 准教授 | 映画学 |
| 伊藤 友美 | 教授 | 東南アジア地域研究、タイ、現代仏教、女性 |
| 井上 弘貴 | 准教授 | 政治理論、公共政策論、アメリカ政治思想史 |
| 岩本 和子 | 教授 | フランス語圏文学、芸術文化論 |
| 王 柯 | 教授 | 中国近代思想史、中国の民族問題、民族主義と日中関係 |
| 長 志珠絵 | 教授 | 日本近現代史、文化研究、ジェンダー史 |
| 小澤 卓也 | 教授 | ラテンアメリカ近現代史、食のグローバル・ヒストリーズ |
| 辛島 理人 | 准教授 | 経済史、文化政策、日本・東南アジア関係 |
| 北村 結花 | 准教授 | 比較文学、比較文化 |
| 窪田 幸子 | 教授 | 文化人類学、先住民研究 |
| 昆野 伸幸 | 准教授 | 日本の思想の歴史的研究 |

- | | | |
|-------------------|-----|----------------------|
| 坂本 千代 | 教授 | フランス文化学、フランス文学 |
| 貞好 康志 | 教授 | 東南アジア地域研究、人間・環境学 |
| Yaroslav Shulatov | 准教授 | ロシア史、日本史、日露関係、国際関係史 |
| 谷川 真一 | 教授 | 社会学、現代中国研究 |
| 塚原 東吾 | 教授 | 科学技術医学史、蘭学とEUテクノ政治学 |
| 寺内 直子 | 教授 | 民族音楽学、日本音楽史 |
| 遠田 勝 | 教授 | 比較文学、比較文化 |
| 西谷 拓哉 | 教授 | アメリカ文学、アメリカ映画 |
| 野谷 啓二 | 教授 | 英米文学、キリスト教文化 |
| 萩原 守 | 教授 | アジア史、アジア法制史 |
| 藤野 一夫 | 教授 | 音楽文化論、文化政策、アートマネジメント |
| 松井 裕美 | 講師 | 近現代美術、フランスの芸術と文化 |
| 松家 理恵 | 教授 | イギリス文学・思想 |
| 山澤 孝至 | 准教授 | 西洋古典学、ギリシア・ラテン文学 |

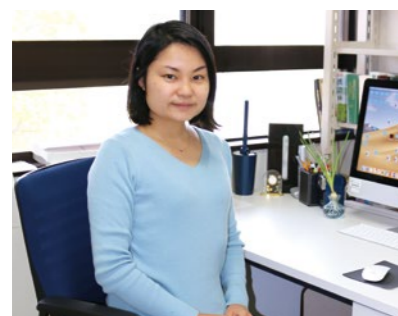
グローバル社会動態

- | | | |
|----------------|-------|-------------------------------|
| 青山 薫 | 教授 | 社会学、ジェンダー/セクシャリティ、移住・移民、調査方法論 |
| 石森 大知 | 准教授 | 文化人類学、オセアニア研究 |
| 市田 良彦 | 教授 | 社会思想史、フランス現代思想 |
| 上野 成利 | 教授 | 政治思想・社会思想史 |
| 梅屋 潔 | 教授 | 社会人類学、文化人類学、民俗学、宗教学 |
| 小笠原博毅 | 教授 | カルチュラル・スタディーズ |
| 岡田 浩樹 | 教授 | 文化人類学、越境・多文化研究、宇宙人類学 |
| Gianluca Gatta | 特命准教授 | 人類学、社会学、欧州地中海域の移民問題、難民と移民の主観性 |
| 齋藤 剛 | 教授 | 文化人類学、中東研究 |
| 坂井 一成 | 教授 | 国際関係論、EU研究、移民・難民問題 |
| 阪野 智一 | 教授 | 比較政治学、現代イギリス政治 |
| 櫻井 徹 | 教授 | 法哲学 |
| 柴田 佳子 | 教授 | 文化人類学、カリブ/英国/北・中南米研究 |
| 中村 覚 | 教授 | 国際政治、中東政治、平和・安全保障 |
| 新川 匠郎* | 講師 | 政治制度論、ドイツ語圏研究 |
| 西澤 晃彦 | 教授 | 社会学、貧困、社会的排除、都市 |
| 朴 沙羅 | 講師 | 移民研究/レイシズム研究 |
| 安岡 正晴 | 准教授 | 現代アメリカ政治、比較公共政策 |

※2019年10月1日着任予定

グローバル・コミュニケーション

- | | | |
|---------------|-------|---|
| Aaron Albin | 講師 | 言語学、音声習得 |
| 大月 一弘 | 教授 | インターネットやICT利用方法の研究 |
| 康 敏 | 教授 | 情報科学、教育工学 |
| 清光 英成 | 准教授 | ソーシャル・コンピューティング、データ管理、教育情報システム、社会情報システム |
| Cynthia Quinn | 特任准教授 | 応用言語学 |
| 正田 悠 | 助教 | 演奏科学、音楽心理学、認知科学、マルチモーダルコミュニケーション |
| 巽 智子 | 講師 | 第一言語習得、心理言語学、言語学 |
| 田中 順子 | 教授 | 第二言語習得理論、応用言語学 |
| 西田 健志 | 准教授 | コミュニケーションのユニバーサルデザイン |
| 林 良子 | 教授 | 音声学、言語学、異文化コミュニケーション |
| 藤濤 文子 | 教授 | 翻訳理論 |
| 松本絵理子 | 教授 | 認知心理学、認知神経科学 |
| 村尾 元 | 教授 | 社会システム科学、機械学習、データサイエンス |
| 森下 淳也 | 教授 | 情報科学、マルチメディアデータ処理、データベース |
| 湯浅 英男 | 教授 | 言語学、ドイツ語学、日本語学 |



松井 裕美 専任講師 近現代美術、フランスの芸術と文化

私たちは日々様々な視覚文化に囲まれて生活していますが、そのなかには過去に培われた文化や思想が潜んでいることが少なくありません。映画やアニメ、漫画、テレビやポスターの広告、毎年新しくなる流行の服のかたち、椅子やコップのかたちのなかにも、実は過去の芸術文化の影響を受けて生まれたものがあるのです。美術作品であれ日用品であれ、あるイメージを単に「見る」のではなく「知る」ということ、それは、背景にある広大な思想や文化の体系を知ることになりません。様々な時代や地域の芸術について考察することで、身近な文化についての理解を深め、新しい世界の見方を発見する経験を、学生の皆さんと共有していきたいと考えています。



正田 悠 助教 演奏科学、音楽心理学、認知科学、マルチモーダルコミュニケーション

私たちが大学生およそ1,000人を対象に行った調査では、毎日3時間以上音楽を聴く人がなんと全体の25%近く。お気に入りのミュージシャンのライブでは安静時の2倍以上の心拍数を2時間半キープする人もいました。音楽は「感情の言語」といわれるように、文化や時間を越えたコミュニケーションの媒体です。このときの私たちの体験は、曖昧で、微妙で、様々な感情が入り交じり、それでいて強烈です。私はこの不思議に魅入られ、背景に人間のどのような特性が隠されているのかを心理・行動・生理の3側面のデータから調べてきました。謎解きのような、宝探しのよう、夢中になってワクワクできる研究にぜひ触れてほしいと思います。

Mission ミッション

人間の発達とそれを支えるコミュニティの実現に取り組む人材を養成する

人間の多様な発達と、その発達を支えるコミュニティ(多様な人々が協働する社会)を実現するために必要な能力を身に付けた人材の養成を目指します。この目的を踏まえ、人間の心理的発達や身体的発達、表現や行動の機能発達など、人間の生涯全体に関わる課題解決を行うために必要な基礎的な専門教育を行う「発達基礎」、人間の多様な発達の相互関係に着目し、グローバル社会と個人をつなぐコミュニティに関する理論の構築と実践的な課題解決を行うために必要な専門教育を行う「コミュニティ形成」という2本の柱を設定しています。

Points 学びの特色

1 広い基礎知識を学び、学びの方向を定める

1年次は、概論等の講義を通じて人間の発達とコミュニティについての幅広い知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。

2 教育プログラムを通して、高い専門性を身に付ける

2年次には、各自の関心や将来の進路などに応じて、5つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を選択して受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

3 国内外の海外研修、フィールドワークを通じて実践力・応用力を鍛える

専門科目の受講により高度な専門性を身に付けると同時に、国内外における活動を通じて実践的な問題解決能力を鍛えます。現場実践によって醸成した問題意識をより明確な課題設定へとつなげ、その解決に必要な具体的な手法を体系的・段階的に学びます。

Programs 発達コミュニティ学科が展開する5つのプログラム

社会エンパワメントプログラム

社会の様々な局面で生じる課題を発見する能力、エンパワメントに対する理解力、対人支援やコミュニティ支援に関する幅広い知識や技術を学び、社会エンパワメントを通してグローバル課題を解決へと導く専門的能力を身に付けます。

心の探究プログラム

人々の心の発達の諸相における課題を発見しその解決へと導くために、人の心とその発達を適切な方法で理解・測定する基礎的能力、現代社会の多様な支援ニーズへの対応方法についての実践的な専門的能力を身に付けます。

アクティブライフプログラム

人々が健康で活動的なライフスタイルを実現するために、人の心身や運動行動を理解・分析する基礎的能力、心身の健康やエイジング、スポーツ活動などに関わる実践的な専門的能力を身に付けます。

ミュージックコミュニケーションプログラム

人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、音楽の発信と受信について多面的に理解・探究する総合的能力、音楽の創造的実践的な専門能力を身に付けます。

アートコミュニケーションプログラム

人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、文化芸術の発信と受信について多面的に理解・探究する総合的能力、美術の創造的実践的な専門能力を身に付けます。

Curriculum

1年次

2年次

3年次

4年次

教養科目

情報基礎科目	健康・スポーツ関連科目	外国語	基礎教養科目	総合教養科目
--------	-------------	-----	--------	--------

GSP (10ページ)

グローバルイシュー概論	グローバルイシュー演習	GSP演習科目(オリエンテーション)		GSP(留学型GSコース)	実践型GSコース・研修型GSコース	GSP演習科目(リフレクション)
-------------	-------------	--------------------	--	---------------	-------------------	------------------

基礎・発展科目

<p>[学部共通]基礎科目</p> <p>初年次セミナー 情報リテラシー演習 協働型リーダーシップ論 異文化間教育論</p>	<p>異文化コミュニケーション論 フィールドワーク基礎論 ソーシャルエンパワメント論 国際開発援助論(JICA)</p>	<p>[学部共通]発展科目</p> <p>国際コミュニケーション演習 TOEFL演習 グローバル共生社会論</p>	<p>[学部共通]基礎科目</p> <p>コミュニティ創成論</p>	<p>[学部共通]発展科目</p> <p>TOEIC演習 イタリア語入門 ロシア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門</p>	<p>Academic Communication(英) Academic Writing(英) Academic Communication(独、仏、中、露) Academic Writing(独、仏、中、露) Cultures and Societies in Japan</p>	<p>日本語コミュニケーション フィールドワーク方法論 情報発信演習 プログラミング基礎演習 ESD演習</p>	<p>English Presentation Skills English for Professional Purposes 途上国農村地域開発論</p>
外国語実習、インターンシップ実習、フィールドワーク実習、					日本語文法基礎、実践日本語基礎、日本語・日本文化基礎演習		

共通科目

発達コミュニティ概論	地域社会学	コミュニティ論	発達コミュニティ演習						
------------	-------	---------	------------	--	--	--	--	--	--

学科専門科目

コア・展開科目

<p>からだの構造と機能 運動の巧みさの科学 運動とこころの科学 加齢の認知心理学 心理学の基礎と歩み 創造の発想とプロセス 社会教育計画論 エスノミュージコロジー 音楽文化史 人とアート論 文化政策論 発達心理学(中・高) 心の発達と教育</p>	<p>プログラム選択</p>	<p>社会エンパワメントプログラム</p> <p>健康心理学 スポーツプロモーション論 ミュージックプロジェクト実践</p>	<p>社会調査法 身体表現論 ミュージックセラピー</p>	<p>障害共生教育論 コミュニティ・ジェンダー論 青年心理学</p>	<p>家族の発達と病理 加齢の社会心理学 人と音楽</p>	<p>コミュニティとメディア ライフコースの心理学 包括支援システム論</p>	<p>ヘルスプロモーション ファッション文化論 ESD実践</p>	<p>社会教育課題研究 (リスクコミュニケーション論、ボランティア学習論、ジェンダー問題学習論、障害共生教育論、自然共生地域支援論)</p>	<p>心理学的援助支援</p>	
		<p>心の探究プログラム</p> <p>心理学調査法 健康心理学 心理グローバルリサーチ ミュージックセラピー</p>	<p>心理学統計法 心理学実験法 心理学観察法 生理心理学</p>	<p>深層心理学 発達アセスメント 青年心理学 臨床心理学</p>	<p>認知発達心理学 児童の発達と学習 初等学校教育相談 公認心理師の職責</p>	<p>心理面接論 家族の発達と病理 加齢の社会心理学 包括支援システム論</p>	<p>心理学研究実践 臨床投影法 心理テスト法 ライフコースの心理学</p>	<p>人格心理学 人格心理学演習 臨床心理学演習 中等学校教育相談</p>	<p>ESD実践 福祉心理学 司法・犯罪心理学 産業・組織心理学</p>	<p>心理学的援助支援 関係行政論</p>
		<p>アクティブライフプログラム</p> <p>加齢の身体運動科学 環境保健学 スポーツプロモーション論 身体運動の文化史 身体表現論</p>	<p>障害共生教育論 心理学統計法 認知発達心理学 身体機能の適応 健康運動科学</p>	<p>身体運動のダイナミクス 運動方法学 精神生理学 公衆衛生学 身体マネジメント研究</p>	<p>トラック&フィールド実習 セーフティプロモーション論 加齢の社会心理学 自然体験活動実習 加齢の健康行動科学</p>	<p>スイミング& アクアティクススポーツ実習 コンテンポラリーダンス ボールゲームズ実習 包括支援システム論</p>	<p>コミュニティと音楽 身体運動科学実験 バイオメカニクス実験 JUDO実習 ジムナスティクス実習</p>	<p>ヘルスプロモーション 健康教育論 スポーツマネジメント スポーツコミュニティ形成論 社会教育課題研究(障害共生教育論)</p>	<p>ESD実践</p>	
		<p>ミュージックコミュニケーションプログラム</p> <p>アートマネジメント論 サウンドデザイン ミュージックセラピー 身体表現論</p>	<p>障害共生教育論 人と音楽 声の表現</p>	<p>ミュージックセオリー &アナリシス シアトリカル・アート論</p>	<p>ピアノ演奏演習 民族音楽演奏演習 声楽表現演習 コンテンポラリーダンス</p>	<p>音楽集団活動論 声楽アンサンブル 器楽アンサンブル 包括支援システム論</p>	<p>コミュニティと音楽 音楽作品研究 ミュージックプロジェクト実践 日本文化交流論</p>	<p>声楽伴奏表現演習 邦楽歌唱法 邦楽器演奏法 社会教育課題研究(ボランティア学習論)</p>	<p>ESD実践</p>	
		<p>アートコミュニケーションプログラム</p> <p>知覚と行為 アートマネジメント論 コミュニティと表象 空間造形論</p>	<p>絵画アート論 身体表現論 都市と建築の20世紀</p>	<p>グラフィックサイエンス 空間アート実践 絵画アート実践 コンテンポラリーダンス</p>	<p>近現代文化言説論 近現代モード論 近現代アート論 コミュニティと音楽</p>	<p>表象文化形成論 視覚文化論 包括支援システム論</p>	<p>コミュニティとメディア コミュニティと都市 ファッション文化論 アフオーダンス論演習</p>	<p>芸術批評演習 アートプロジェクト実践 幾何デザインと視覚伝達 社会教育課題研究(ボランティア学習論)</p>	<p>ESD実践</p>	<p>映像・メディア論演習</p>

卒業研究



社会エンパワメント

稲原 美苗	准教授	ジェンダー理論、現象学、臨床哲学
清野未恵子	准教授	自然共生社会、野生動物管理、ESD
津田 英二	教授	生涯学習論、障害共生支援論
松岡 広路	教授	生涯学習論、福祉教育・ボランティア学習論
村山留美子	准教授	環境保健学、環境リスク学
大田美佐子*	准教授	西洋音楽史、音楽美学
岡崎 香奈*	准教授	音楽療法、即興演奏
平芳 裕子*	准教授	表象文化論、ファッション文化論
吉田 圭吾*	教授	臨床心理学、スクールカウンセリング

※他プログラムとの兼任

心の探究

相澤 直樹	准教授	臨床心理学、臨床心理検査(投影法)
伊藤 俊樹	准教授	臨床心理学、芸術療法
加藤 佳子	教授	健康心理学、健康教育
河崎 佳子	教授	臨床心理学、発達臨床心理学
齊藤 誠一	准教授	生涯発達心理学、思春期心理学、災害心理学
坂本 美紀	教授	教育心理学
谷 冬彦	准教授	人格心理学
鳥居 深雪	教授	発達障害臨床学
林 創	准教授	発達心理学、教育心理学
古谷 真樹	准教授	睡眠心理学、生理心理学、健康心理学
山根 隆宏	准教授	発達臨床心理学、発達障害児家族支援
吉田 圭吾	教授	臨床心理学、スクールカウンセリング

アクティブライフ

秋元 忍	准教授	体育・スポーツ史
岡田 修一	教授	加齢の身体運動科学
片桐 恵子	教授	社会心理学、社会老年学
河辺 章子	教授	運動生理学(身体運動制御)
木村 哲也	准教授	身体システム学、応用生理学、バイオメカニクス
近藤 徳彦	教授	応用生理学、運動生理学、環境生理学
佐藤 幸治	准教授	スポーツ生理・生化学
高田 義弘	准教授	運動生理学(身体コンディショニング)
高見 和至	教授	運動心理学
長ヶ原 誠	教授	スポーツ振興論、国際スポーツ文化論、加齢発達論
中村 晴信	教授	公衆衛生学、生理人類学
原田 和弘	准教授	老年行動学
前田 正登	教授	スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学
増本 康平	准教授	高齢者心理学、実験心理学、認知心理学
古谷 真樹*	准教授	睡眠心理学、生理心理学、健康心理学
村山留美子*	准教授	環境保健学、環境リスク学

※他プログラムとの兼任

ミュージックコミュニケーション

大田美佐子	准教授	音楽文化史、音楽美学
岡崎 香奈	准教授	音楽療法、即興演奏
谷 正人	准教授	民族音楽学、イラン伝統音楽
津田 英二*	教授	生涯学習論、障害共生支援論
田畑 暁生*	教授	社会情報学、映像論
野中 哲士*	准教授	認知科学、生態心理学

※他プログラムとの兼任

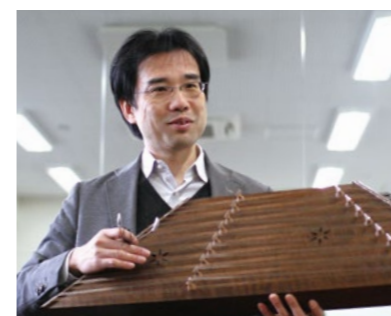
アートコミュニケーション

梅宮 弘光	教授	近代建築史
小高 直樹	教授	感性科学、図形科学
岸本 吉弘	教授	絵画の創作と研究
関 典子	准教授	舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究
田畑 暁生	教授	社会情報学、映像論
野中 哲士	准教授	認知科学、生態心理学
平芳 裕子	准教授	表象文化論、ファッション文化論



山根 隆宏 准教授 発達臨床心理学、発達障害児家族支援

私は臨床心理学を専門にしており、生きづらさや困難さを抱える人たちの心の問題の理解や支援の在り方を検討しています。特に発達障害のある人たちとその家族への支援が私の中心的な研究テーマです。調査だけでなくカウンセリングや療育、家族支援などを通して、実際に生きづらさや困難さにアプローチをしたり、地域の支援者と協力してよりよい支援方法の開発を行っています。また家族関係や周囲のサポート、支援機関との関係、その他にもオンライン上の情報や交流など様々な観点から検討もしています。心の問題はとても複雑で、未だ見ぬ研究テーマがたくさん広がっています。ぜひ人の心について様々な観点から一緒に学び、考えていきましょう。



谷 正人 准教授 民族音楽学、イラン伝統音楽研究

民族音楽学は、音楽それ自体だけではなく、「音楽をする人間」を考える営みです。例えば私はイラン音楽の即興演奏を対象としながら、演奏家コミュニティという集団が持つ多層的秩序の中で、一個人がどのように他者との相互行為によって、即興というコミュニケーション形態を成立させているのかを考えています。そこには「音楽を耳で聴くのか目で見るのか(楽譜の存在)」「身体の使い方によって音楽認識が異なる」など、興味深い観点が様々にあります。また私自身がサントールという楽器の演奏をも行っている関係で、演奏に伴う身体の故障・痛みや緊張の問題など、音楽に伴う心身の不調についても考えていますが、それらも「音楽する」という概念のより広い問い直し、人と音楽とのかかわり方の多様性の探求へと繋がっていくのです。



環境共生学科

Mission ミッション

グローバル共生社会を支える環境を創り出す 文理融合型人材を養成する

人間と環境の調和に根ざす持続可能なグローバル共生社会の実現を目指し、身近な環境から地球環境に至る幅広い環境について、様々な問題を発見・立論し、解決に導くために必要な能力を有し、さらに、国際的な視野から課題に取り組み行動力を身に付けた人材を養成します。この目的を踏まえ、本学科は、環境の成り立ちを解析し、課題を発見・立論するために必要な基礎科学の専門教育を行う「環境基礎科学」、環境改善のための技術・システム、政府・自治体の政策、教育と市民参加、企業・NPO・NGO等の活動に関する専門教育を行う「環境形成科学」という2本の柱を設定しています。

Points 学びの特色

- 1 広い基礎知識を学び、学びの方向を定める**
1年次は、概論等の講義を通じて環境共生学についての幅広い基礎知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。
- 2 教育プログラムを通して、高い専門性を身に付ける**
2年次には、各自の関心や将来の進路など目的に応じて、4つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。
- 3 海外研修、フィールドワークを通して、エキスパートとしての実践力・応用力を鍛える**
専門科目の受講に加え、国内外でのフィールドワーク、多彩な調査、最先端の科学実験などにより高度な専門性を身に付けると同時に、多様な環境改善プロジェクトやNPO・NGO等の環境関連活動への参加を通じて、実践的な問題解決能力を培います。

Programs 環境共生学科が展開する4つのプログラム

- 環境自然科学プログラム**
地球規模の環境問題を引き起こす多様な要因や問題が顕在化するまでの複雑なメカニズムを解明し、解決策を提案するために、自然の成り立ちや法則の理解を基礎として、フィールドワーク・科学実験・データ解析などの調査・分析・解析手法について学びます。
- 環境数理科学プログラム**
環境に潜む様々な現象を数理的な手法で解明し、人間と環境のよい共生関係を論理的かつ緻密にデザインするために、数理科学に関する基礎知識を身に付け、諸問題に対する新しい分析方法について学びます。
- 生活共生科学プログラム**
日常生活における人と人、人と環境のよりよい共生関係をデザインするために、フィールドワーク、各種調査、科学実験の基礎的な技能を身に付け、幅広い問題を発見・立論するとともに、課題解決に向け、実践的な技術開発、環境設計、政策立案について学びます。
- 社会共生科学プログラム**
文化・政治・経済・社会・地域等における様々な対立を乗り越えるために、グローバル社会における共生のあるべき姿を考えます。身近な環境からグローバルな環境に至る様々な課題を発見し、その原因と解決について学びます。国内外でのフィールド調査・文献調査を通して、実践力を身に付けます。

Curriculum

	1年次	2年次	3年次	4年次
教養科目	情報基礎科目 健康・スポーツ関連科目	外国語 基礎教養科目	総合教養科目	
GSP (10ページ)	グローバルイシュー概論 グローバルイシュー演習	GSP演習科目(オリエンテーション) ————— GSP(留学型GSコース・実践型GSコース・研修型GSコース) —————		GSP演習科目(リフレクション)
学部共通科目	基礎・発展科目 [学部共通]基礎科目 初年次セミナー 情報リテラシー演習 協働型リーダーシップ論 異文化間教育論 異文化コミュニケーション論 フィールドワーク基礎論 ソーシャルエンバウメント論 国際開発援助論(JICA)	基礎・発展科目 [学部共通]発展科目 国際コミュニケーション演習 TOEFL演習 グローバル共生社会論	基礎・発展科目 [学部共通]基礎科目 コミュニティ創成論 [学部共通]発展科目 TOEIC演習 イタリア語入門 コリア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門	基礎・発展科目 Academic Communication(英) Academic Writing(英) Academic Communication(独、仏、中、露) Academic Writing(独、仏、中、露) Cultures and Societies in Japan 日本語コミュニケーション フィールドワーク方法論 情報発信演習 プログラミング基礎演習 ESD演習 English Presentation Skills English for Professional Purposes 途上国農村地域開発論
共通科目	環境共生学概論 地球環境学			
学科専門科目	基礎・コア・展開科目 物理学入門 力学基礎 電磁気学基礎 連続体力学基礎 熱力学基礎 量子力学基礎 相対論基礎 物理学実験 基礎無機化学 基礎有機化学 生物学概論 生物学各論 基礎地学 市民科学教育論 線形代数入門 線形代数 微分積分入門 微分積分 数理統計 情報科学 法学 政治学 経済学 社会学 倫理学 外国史 日本史	プログラム選択 環境自然科学プログラム 環境物理学 環境物質科学 環境生命科学 環境地球科学 環境基礎科学実験 統計的問題解決法 計算機科学入門 数理モデルプログラミング 数理科学入門 数理科学基礎	プログラム選択 環境数理科学プログラム 数理科学基礎 数理科学入門 統計的問題解決法 計算機科学入門 環境物理学 環境物質科学 環境生命科学 生活共生科学プログラム 環境経済学 グローバル都市地域論 地域環境資源論 生活空間計画論 緑地環境論 高齢者環境論 こども環境論 環境社会学 環境思想史	プログラム選択 社会共生科学プログラム 地域環境資源論 生活空間計画論 緑地環境論 ライフスタイル論 公害・環境史 環境社会学 グローバル開発政策論 グローバル都市地域論 環境インフォマティクス 生物多様性科学 環境資源植物科学 スマート・ライフサイエンス 環境数値解析 アプライアンス環境論 アプライアンス環境論 スマート・ライフサイエンス 環境政策論 地域景観生態論 生態学 環境生命化学 環境生理学 分子生物学 野外生物学実習 環境システム設計論 環境インフォマティクス 衣環境論 食環境論 住環境論 福祉環境システム論 地域空間システム論 地域社会共生論 環境政策論 社会環境変動史 社会文化環境論 グローバル平和論 グローバル経済環境史 環境法 環境応用科学実験 環境基礎物理学 地球環境物理学 環境地球化学 環境高分子化学 地球環境変動史 環境基礎科学演習 多変量解析 実験計画法 計算代数 環境モデル解析 環境基礎科学演習 情報数理 環境形成科学調査法 環境形成科学実験 環境形成科学演習 環境形成科学実習 福祉環境システム論 フィールドワーク実習 環境形成科学演習

卒業研究



環境自然科学

- | | | |
|-------|-----|----------------|
| 青木 茂樹 | 教授 | 素粒子・宇宙線物理学 |
| 蘆田 弘樹 | 准教授 | 光合成酵素、代謝制御学 |
| 伊藤 真之 | 教授 | 宇宙物理学、科学教育 |
| 丑丸 敦史 | 教授 | 植物生態学、生物多様性科学 |
| 江原 靖人 | 准教授 | 生物有機化学 |
| 大串 健一 | 教授 | 地球環境、環境地学 |
| 近江戸伸子 | 教授 | 植物環境バイオテクノロジー |
| 佐藤 春実 | 教授 | 高分子化学、高分子振動分光学 |
| 高見 泰興 | 准教授 | 進化生態学 |
| 田中 成典 | 教授 | 計算生物学、理論生命科学 |
| 谷 篤史 | 准教授 | 惑星環境物理学 |
| 源 利文 | 准教授 | 水域生態学、環境生理学 |

環境数理科学

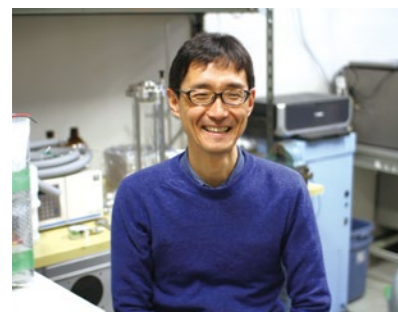
- | | | |
|-------|-----|-------------------|
| 稲葉 太一 | 准教授 | 数理統計学、応用統計学、データ解析 |
| 桑村 雅隆 | 教授 | 応用解析学 |
| 阪本 雄二 | 准教授 | 数理統計学 |
| 高橋 真 | 教授 | 情報論理学 |
| 長坂 耕作 | 准教授 | 計算機代数、計算機科学 |
| 宮田 任寿 | 教授 | 幾何学的トポロジー |

生活共生科学

- | | | |
|-------|-----|--------------------------|
| 井上 真理 | 教授 | 衣環境学、感性工学 |
| 大野 朋子 | 准教授 | 緑地環境学、造園学 |
| 佐藤 真行 | 准教授 | 環境経済学 |
| 白杉 直子 | 教授 | 食環境学 |
| 田畑 智博 | 准教授 | サステナビリティ評価論(環境・都市・エネルギー) |
| 平山 洋介 | 教授 | 生活空間計画 |
| 福田 博也 | 准教授 | 生体電子計測、ヒューマンエレクトロニクス |

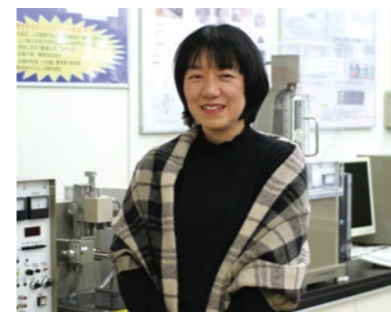
社会共生科学

- | | | |
|-------|------|----------------------|
| 浅野 慎一 | 教授 | 社会文化環境論、社会学 |
| 井口 克郎 | 准教授 | 社会保障、福祉国家、災害被災者の生活問題 |
| 岩佐 卓也 | 准教授 | 社会政策 |
| 太田 和宏 | 教授 | 途上国政治経済 |
| 岡田 章宏 | 教授 | 基礎法学 |
| 澤 宗則 | 教授 | 人文地理学、地域社会論 |
| 橋本 直人 | 准教授 | 社会思想、社会学史 |
| 古川文美子 | 特命助教 | 地域資源保全 |



谷 篤史 准教授 惑星環境物理学

地球惑星科学って知っていますか？地球や惑星のことを物理や化学、ときには生物の視点から研究する総合的な学問です。私は、その中でもハビタブルプラネットを特徴づける「水」に関連する研究を進めています。地球には液体の水が存在しますが、他の惑星や衛星ではどうでしょう？昔はあったのでしょうか？どうして氷衛星の中に「海」があるのでしょうか？グローバルイシューそのものでもある地球惑星科学の課題の理解や解決には、地学だけでなく、数学、物理、化学、生物といった多様な分野の知識と経験が必要となります。この学科の特徴である「広く学ぶ」ことを通じて、地球や惑星の環境についての研究にみなさんと取り組めることを楽しみにしています。



井上 真理 教授 衣環境学、感性工学

衣服は持ち運びできる環境と呼ばれ、人間が本来備えている生理的な機能をカバーする一方で、装う楽しみや社会的なTPOに対応し、ノンバーバルなコミュニケーションの役割も果たします。衣環境研究室では、繊維材料の基礎研究とともに、衣服や、紙おむつなどの衛生用品、住居や自動車などに用いられる繊維製品を対象に、着心地、使い心地という感覚を客観的に評価する研究を行っています。2030年までの国際目標となっているSDGs(持続可能な開発目標)の内容は、生活そのものに関係する部分が少なくありません。生活共生科学プログラムでは、生活を多面的に観察し、チャレンジ精神を持ち、身近なことに問題意識をもつ人材を育てていきたいと考えています。

子ども教育学科

Mission ミッション

現代社会の文化的多様性を尊重した
子ども教育に取り組む人材を養成する

次世代育成を通じたグローバル共生社会の実現を目指し、グローバル社会に関わる幅広い視野を持ちながら、子どもと学校が抱える課題を多面的に認識し、実践的に解決していく能力を身に付けた初等教育教員等を養成します。この目的を踏まえ、本学科では、初等教育を構成する「学校教育学」と「乳幼児教育学」の2つのコースを設け、世界と日本の学校教育、国際文化理解教育など、グローバル共生社会の実現に向けた教育の現状と課題について理解を深めた後、コースごとの体系的な教育研究を行っています。

Points 学びの特色

- 幅広い基礎知識を得て方向性を選択する**
1年次は、概論等の講義を通じ、未来のグローバル共生社会を創り出す子どもの教育について原理的諸側面と教科的諸側面を中心に、多角的な知見と探究方法論を修得し、基礎的な能力を身に付けます。同時に、幅広い専門科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。
- コースごとの学修を通して、高い専門性を身に付ける**
2年次に、将来の進路など目的に応じて、2つのコースから1つのコースを選択します。それぞれのコースで開講される専門科目を受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。
- 理論と実践の往還を通して、エキスパートとしての実践力・応用力を鍛える**
大学での専門科目の受講によって身に付けた高度な専門性を、附属学校園を含む国内外の学校現場での教育実習やインターシップの経験と連関させ、初等教育教員としての実践的指導力、子どもの教育を学問的に探究するための研究能力を鍛えます。

Courses 子ども教育学科が展開する2つのコース

学校教育学コース
主に教育学、教科内容・指導論、心理学の専門性に基いて、義務教育の基盤である小学校を中心とした教育理念、制度、教育内容と方法に関する教育研究を行います。あわせて、インクルーシブ教育の観点から、障害のある子どもに対する特別支援教育に関する教育研究を行います。

乳幼児教育学コース
主に教育学、保育内容・指導論、心理学の専門性に基つき、生涯にわたる人格形成の基盤である乳幼児期を中心とした教育理念、制度、保育内容と方法に関する教育研究を行います。あわせて、幼小連携教育の観点から、小学校教育の内容と方法等に関する教育研究を行います。

Curriculum

	1年次	2年次	3年次	4年次
教養科目	情報基礎科目 健康・スポーツ関連科目	外国語 基礎教養科目	総合教養科目	
GSP (10ページ)	グローバルイシュー概論 グローバルイシュー演習	GSP演習科目(オリエンテーション) ————— GSP(留学期GSコース) ————— 実践型GSコース・研修型GSコース —————		GSP演習科目(リフレクション)
学部共通科目	[学部共通]基礎科目 初年次セミナー 情報リテラシー演習 協働型リーダーシップ論 異文化間教育論	[学部共通]発展科目 異文化コミュニケーション論 フィールドワーク基礎論 ソーシャルエンバウメント論 国際開発援助論(JICA)	[学部共通]基礎科目 コミュニティ創成論 TOEIC演習 イタリア語入門 ロシア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門	[学部共通]発展科目 TOEIC演習 イタリア語入門 ロシア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門
基礎・発展科目	Academic Communication(英) Academic Writing(英) Academic Communication(独、仏、中、露) Academic Writing(独、仏、中、露) Cultures and Societies in Japan		日本語コミュニケーション フィールドワーク方法論 情報発信演習 プログラミング基礎演習 ESD演習	English Presentation Skills English for Professional Purposes 遠上国農村地域開発論
共通科目	子ども教育学概論 保育原理(世界と日本の乳幼児教育)	国際文化理解教育論 教育原理(世界と日本の学校教育)	子ども教育学演習	子ども教育学演習
学科専門科目	教職論(小) 教師入門 教育経営学(幼・小) 発達心理学(幼・小) 初等算数論 初等図工論 乳幼児心理学 保育内容研究(造形表現) 保育内容研究(音楽表現) 保育内容研究(児童文化と言葉) 乳児心理学演習 観察実習I	学校教育学コース 児童の発達と学習 教育行政学(幼・小) 初等カリキュラム論 初等道徳教育論 初等教育方法学 初等国語科教育論 初等理科教育論 初等生活科教育論 初等算数科教育論 初等音楽科教育論 初等体育論	乳幼児教育学コース 乳幼児教育課程論 初等体育論 初等国語論 初等音楽論 保育内容研究(健康I) 保育内容研究(環境) 保育内容研究(人間関係) 保育内容研究(健康II)	初等図工科教育論 初等体育科教育論 初等英語教育論 初等国語論 初等生活科論 初等社会科論 初等音楽論 初等理科論 初等家庭科論 学校インターンシップI 観察実習II
コア・展開科目		初等英語論 日本教育史 発達障害心理学 臨床発達支援学 障害とリハビリテーション 障害児発達学 グローバル教育演習(教育行政学) グローバル教育演習(教育制度) グローバル教育演習(科学教育) グローバル教育演習(教育方法学) グローバル教育演習(教育史学)	初等特別活動指導論 初等生徒指導論(進路指導を含む) 初等社会科教育論 初等家庭科教育論 初等学校教育相談 初等教育事前・事後指導 初等教育実地研究 学校インターンシップII 科学教育実践研究 科学教育実践研究 総合的学習の指導法(小)	比較教育システム論 西洋教育思想史 比較教育政策論 乳幼児と健康 グローバル教育文献演習 社会認識実践研究 乳幼児と環境 数理認識実践研究 英語科実践研究 特別支援教育入門(幼・小) 特別支援教育総論
卒業研究		発達障害と共生社会 発達障害教育論 知的障害支援学 障害児支援学概論 乳幼児と言葉 乳幼児と表現(音楽) 乳幼児と表現(造形) 乳幼児と人間関係 支援教育臨床学	教職実践演習(幼・小) 学校インターンシップIII 教育・保育実践演習(乳幼児教育)	乳幼児と言葉 乳幼児と表現(音楽) 乳幼児と表現(造形) 乳幼児と人間関係 社会的養護 特別支援教育入門(幼・小) 障害児保育演習 子ども家庭支援論 発達障害教育論



学校教育学コース／乳幼児教育学コース

教員は両コースを担当します

赤木 和重	准教授	発達障害心理学	中谷奈津子	准教授	保育学、家族関係学
稲垣 成哲	教授	科学教育	長谷川 諒	特命講師	音楽教育学、音楽教育哲学
岡部 恭幸	教授	数理認識論、数学教育	船寄 俊雄	教授	日本教育史、教育学
奥山 和子	講師	日本語教育、留学生教育、異文化間教育	目黒 強	准教授	児童文学、国語教育
川地亜弥子	准教授	教育方法学	山口 悦司	准教授	科学教育
北野 幸子	准教授	乳幼児教育学、保育学	山下 晃一	准教授	教育制度論、教育経営学
木下 孝司	教授	発達心理学	山根 隆宏	准教授	発達臨床心理学、発達障害児家族支援
國土 将平	教授	身体発育発達、保健体育科教育、健康・スポーツ測定	吉永 潤	教授	社会認識教育論
勅使河原君江	准教授	美術教育	渡部 昭男	教授	教育行政学(地域教育学、特別ニーズ教育)
鳥居 深雪	教授	発達障害臨床学	渡邊 隆信	教授	西洋教育史、教育哲学



山下 晃一 准教授 教育制度論、教育経営学

クラス替えの時や中学・高校に進んだ時、それまで「当たり前」と思ってきたことが、大きく変わったように感じた経験はありませんか。そのとき初めて気づく学級・学校の「当たり前」、いわば組織の空気・風土・文化は、私たちの意識や行動を知らないうちに左右して、子ども同士の人間関係や教師の教育実践を大きく規定します。こうした「見えないルール」を「見える化」しなければ、良い関係や実践の継続・共有・発展は難しく、悪い関係や実践の原因解明・改善・変革は進みません。教育制度論・教育経営学では、学級や学校における身近なルールを見抜き、作り替え、より良い教育を目指しながら、教育・社会そして自分自身への深い洞察力を養います。

インフォメーション Information

- キャンパス紹介
- 募集人員
- 取得可能な資格免許
- 学生生活支援
- アクセス

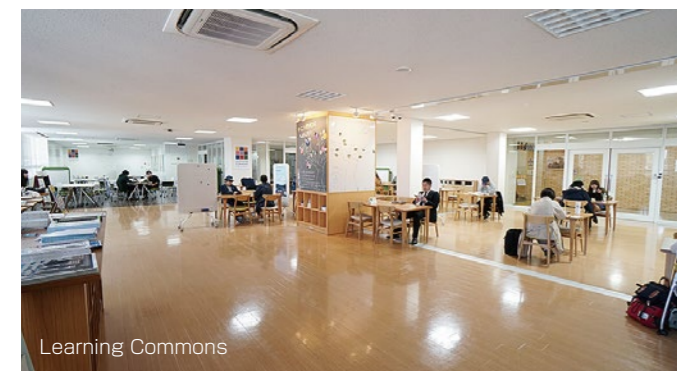


キャンパス紹介

TSURUKABUTO CAMPUS

1 鶴甲第1キャンパス

グローバル文化学科



TSURUKABUTO CAMPUS

2 鶴甲第2キャンパス

発達コミュニティ学科

環境共生学科

子ども教育学科



ラーニングcommons Learning Commons

ラーニングcommonsとは、学生や教職員が自由に利用できる創造的学習のためのスペースです。教室とは異なるオープンな場であり、学生が自由に出入りして多様な人と交流しつつ、学問の垣根を超えた議論を通じて、開かれた協同の学びを実践する場であることをコンセプトとしています。国際人間科学部には、鶴甲第1キャンパスに4箇所、鶴甲第2キャンパスに4箇所のラーニングcommonsが設置され、学生同士が話し合いながら行うグループ学習や、ゼミ・発表の準備、プレゼンテーションの練習などに活用されています。

図書館 Library

神戸大学附属図書館は、各学部・研究科の研究領域をサポートする専門図書館と、総合図書館の合計9つの図書館から構成されます。国際人間科学部では、鶴甲第1キャンパスには総合・国際文化学図書館、鶴甲第2キャンパスには人間科学図書館が設置されています。

キャリアセンター Career Center

国際人間科学部では、所属する学生一人ひとりのキャリア形成を積極的に行っていきます。学部がおかれる2つの各キャンパス(鶴甲第1キャンパス、鶴甲第2キャンパス)には、学生のキャリア形成を支援するアドバイザーが常駐するセンターをそれぞれ設置しており、学生が自らの専門性をどのように社会に生かしていくかを考え、そのために必要な学びや行動を実施していく過程を支援します。各センターでは、1年生から4年生まですべての学生を対象として、キャリア形成支援のための様々なセミナー等の開催を実施しています。

GSPオフィス GSP Office

GSPオフィスは、GSPの学修全般をサポートする部門です。GSPオフィスでは、海外研修やフィールド学修の豊富な経験をもつコーディネーターが常駐しており、学生一人一人がGSPの各科目を効果的に学修し、GSPの目的を達成できるよう、専門のコーディネーターが学業と海外生活の両面についてアドバイスします。

交流スペース Exchange Space

2つのキャンパスには、学生同士が活発に交流できるスペースとして、それぞれ「Intercultural Cafe」(鶴甲第1キャンパス)、「Global Human Science Cafe」(鶴甲第2キャンパス)などが置かれています。特に、毎年、世界各国から多くの留学生が学ぶ国際人間科学部では、これらのスペースの利用やそこで実施される行事への参加を通じて、様々な文化的背景を持つ学生と交流し、多種多様な世界の文化に触れ、理解を深めています。

2020年度学生募集人員

学科	入学定員	一般入試		AO入試	「志」入試	推薦入試	社会人入試	私費外国人留学生入試
		前期日程	後期日程					
グローバル文化学科	140名	95名	35名	—	—	10名	—	若干名
発達コミュニティ学科	100名	54名	10名	スポーツ科学受験 12名 音楽受験 12名 美術受験 8名 身体表現受験 4名	—	—	若干名	若干名
環境共生学科	80名	文系23名 理系30名	文系8名 理系9名	研究実績受験 2名(注1) 理数系科目受験 3名	5名(注1)	—	若干名	若干名
子ども教育学科	50名	39名	11名	—	—	—	若干名	若干名

(注1) 2021年度の学生募集人員については、環境共生学科AO入試研究実績受験を廃止し、「志」入試の定員を5名から7名に変更する予定です。

取得可能な資格免許

学科	取得可能な資格	取得可能な免許
グローバル文化学科	学芸員	中学校教諭一種(英語) 高等学校教諭一種(英語)
発達コミュニティ学科	学芸員 社会教育主事 社会福祉主事任用資格 公認心理師受験資格(注2)	中学校教諭一種(保健体育、音楽、美術) 高等学校教諭一種(保健体育、音楽、美術)
環境共生学科	学芸員 社会教育主事 社会福祉主事任用資格	中学校教諭一種(理科、数学、家庭、社会) 高等学校教諭一種(理科、数学、家庭、地理歴史、公民)
子ども教育学科	学芸員 社会教育主事 社会福祉主事任用資格	幼稚園教諭一種 小学校教諭一種 特別支援学校教諭一種

(注2) 「心の探究プログラム」を選択する学生が主。受験資格取得には、卒業後に大学院で公認心理師科目を修得するか、一定期間の実務経験が必要です。

学生生活支援

神戸大学では、充実した学生生活をサポートするために様々な制度を用意しています。
詳細については、神戸大学ウェブサイトの「教育・学生生活」(<http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife>)をご覧ください。

■奨学金

本学には、独立行政法人日本学生支援機構、民間奨学団体・地方公共団体及び神戸大学独自の奨学金などの多様な奨学金制度があります(各奨学金には、卒業後、返還義務のある「貸与」と返還義務のない「給付」とがあります)。また、奨学金制度以外に、入学科免除、授業料免除(全額免除・半額免除)の制度があります。

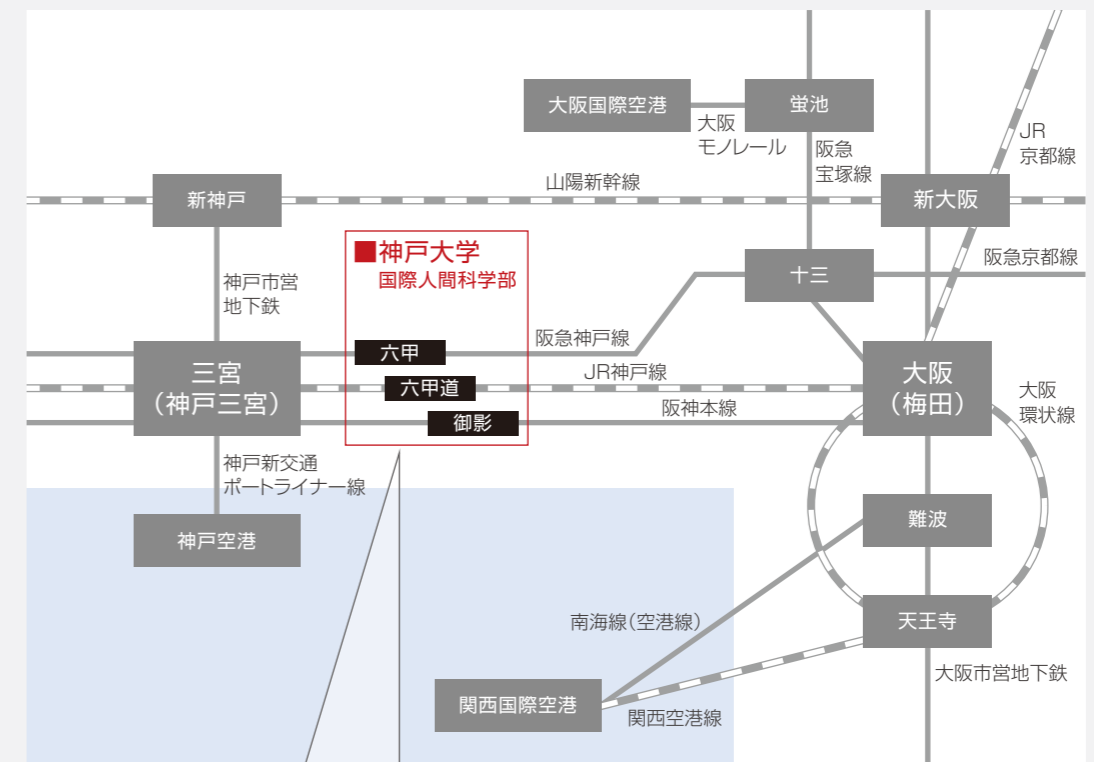
■学生寮

本学では、修学に適する良好な環境を提供するため、学生寮を設置しています。学生寮は、男子学生用に「住吉寮」「住吉国際学生宿舎」「国維寮」「白鷗寮」、女子学生用に「女子寮」「住吉国際学生宿舎」「国維寮」「白鷗寮」があります。経済的負担が軽く、学年を超えた多様な学生との集団生活が体験できること、また、日本人学生と留学生の混在型となっており、国際的な交流ができることもメリットです。

■健康

保健管理センターにおいて、健康診断を実施し、心身の健康に関するあらゆる相談を受け付けています。「からだの健康相談」では医師が、健康診断の結果や日常の健康に関する様々な相談を受け付ける他、学内における救急処置に対応しています。また、「こころの健康相談」ではカウンセラー及び医師が、様々な悩みや心配、心身の状態について相談を受けています。相談の内容によっては、両方を同時に受診して、心身の悩みに総合的に対応できる体制が取られています。

Access アクセス



■最寄り駅からのアクセス

- 【最寄り駅】**
阪急電車「六甲」駅、JR「六甲道」駅
または阪神電車「御影」駅
- 【鶴甲第1キャンパス】**
神戸市バス16系統または106系統
「六甲ケーブル下方面」行に乗り、
「神大国際文化学研究所前」で下車
- 【鶴甲第2キャンパス】**
神戸市バス36系統「鶴甲団地」行
（「鶴甲2丁目止」行）に乗り、
「神大人間発達環境学研究所前」で下車

神戸大学 国際人間科学部

- 【鶴甲第1キャンパス】**
■グローバル文化学科
〒657-8501
兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1
TEL 078-803-7515(代表)
- 【鶴甲第2キャンパス】**
■発達コミュニティ学科
■環境共生学科
■子ども教育学科
〒657-8501
兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11
TEL 078-803-7905(代表)
<http://www.fgh.kobe-u.ac.jp>



2019年6月発行